

研究課題名 (倫理委員会承認番号)	急性期のアテローム血栓性脳梗塞と Branch atheromatous disease(BAD) Type に対しアルガトロバンの代替療法としてヘパリン投与例の臨床的検討 202307
当院の研究責任者(所属)	松山 稜太郎 (脳神経内科)
他の研究機関及び 各施設の研究責任者	該当なし
本研究の目的	コロナ禍で当院を含めた市中病院へのアルガトロバンの供給不足により、一時的に脳梗塞急性期における治療変更を必要とする事案が発生した。そこで今回我々は、アルガトロバンの代替療法としてヘパリンを採用し、アルガトロバン投与例とヘパリン投与例の有効性と安全性について比較検討を行った。今後も同様の事案が起こり得る可能性はあり、今回の結果を基に治療方針の一助となり得る。
調査データの該当期間	倫理審査委員会承認後 ～ 2024年3月31日
研究の方法 (対象となる方)	2022年12月から2023年8月に入院した急性期脳梗塞(アテローム血栓性脳梗塞と BAD Type)48例を抽出し初期治療としてアルガトロバン投与26例とヘパリン投与22例に分け脳梗塞の症状悪化および入院1週間以内の頭蓋内出血の有無を評価した。
研究の方法 (使用する情報)	解析方法 (本院で <input type="checkbox"/> 実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 実施する) アルガトロバン投与群とヘパリン投与群の2群間で、脳梗塞による麻痺症状の悪化と頭蓋内出血の有無をMann-Whitney U検定で比較検討する。 評価項目・方法 NIHSS 1点以上の顔面・四肢麻痺の悪化を症状増悪とし入院時および入院1週間後の診療録を参照した。入院1週間以内における頭部CT・MRIを確認し頭蓋内出血の有無を評価した。
資料・情報の他機関への提供	該当なし
個人情報の取り扱い	データの解析および研究成果の発表・公表においては、個人を特定できる形としない。
本研究の資金源 (利益相反)	なし
お問い合わせ先	翠清会梶川病院 脳神経内科 松山 稜太郎
備考	